

4 平成29年度 協働事業の概要 No.6

1 事業名 : 「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発

2 実施団体名 : 龍の仕事展実行委員会

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課振興班

4 事業目的・概要

高梁川に育まれた「ものづくり企業」、自社の企業文化の紹介や個性的な商品の販売を行う「龍の仕事展」を活用し、大学生が自己啓発力・自己教育力等を身につけることのできる人材育成プログラムを産一官一学の連携で開発する。

5 事業の流れ等

(1) 参加学生

岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、就実大学、作陽音楽短期大学

(2) 事前研修

- ・日時：平成29年6月25日 10:00～17:00
7月 2日 10:00～17:00
- ・場所：備中県民局 会議棟
- ・講師：森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・受講人数：29名

今年度は、事前研修を2回にわたり実施し、2回とも参加を必須とした。龍の仕事展・D-INTERNSHIPの目的やルールの共有、ケーススタディを行うとともに、昨年度の反省から報告・連絡・相談の研修の充実を図った。

(3) 企業交流会

- ・日時：平成29年7月12日 17:00～19:00
- ・場所：倉敷商工会議所1階第2会議室
- ・講師：森田恵子 原浩之
- ・参加者：14社21名
- ・内容

企業に学生受入に関する留意点の説明や出展目的の明確化等を図るために実施した。

(4) 企業研修

- ・日時：平成29年7月15日～9月15日
- ・場所：出展企業（一部アテンド 久保田正彦）
- ・内容

各学生が龍の仕事展で担当する会社訪問や工場見学等を行い、企業が考える龍の仕事展での目的・目標・課題を踏まえて、学生が展示方法等について、提案を行った。

(5) 中間研修

- ・日時：平成29年8月20日（場所：備中県民局会議棟）
10:00～17:00
- 平成29年8月27日（場所：倉敷天文台）
10:00～17:00
- ・講師：森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・受講者数：28名
- ・内容

企業研修の進捗状況を掴むとともに、企業研修中に報・連・相が実施できていたかどうかの確認を行った。また、仕事展までの残りの期間で企業研修中に確認・準備すべき事柄の確認も実施した。

(6) 直前研修

- ・日時：平成29年9月11日 10:00～17:00
- ・場所：備中県民局会議棟
- ・講師：森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・受講者数：24名
- ・内容

企業研修の振り返りと龍の仕事展で担当企業をどのように紹介するかの提案を行った。また、提案に対して講師が仕事展までに確認すべき点や改良した方が良い点等のアドバイスを実施した。

(7) 「龍の仕事展2017」での接客・販売などの研修を通したPDCA実践

- ・日時：平成29年9月16日～9月24日
9:00～18:00
- ・場所：倉敷アイビースクエア内アイビー学館
- ・講師：森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・内容

龍の仕事展中、毎日朝・夕のミーティングを開き、朝はその日の課題と目標を発表し、夕方は課題と目標に対して取り組んだ成果の報告を実施した。

このように反省と課題解決の方法を考えるPDCAサイクルを回すプログラ

ムを実施した。

(8) 成果発表会

- ・日時 : 平成29年10月1日 10:00~17:00
- ・場所 : 備中県民局会議棟
- ・講師 : 森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・受講人数 : 28名
- ・内容

事前研修から龍の仕事展までの一連の活動を振り返り、これからの大学での学業や自分の人生にどのように生かすかについて発表する成果発表会を実施した。

(9) 事後研修

- ・日時 :
平成29年10月20日 14:00~18:00 (倉敷天文台)
27日 10:00~12:00 (おかやまアナウンスラボ)
11月 2日 13:00~14:00 (おかやまアナウンスラボ)
20日 17:00~19:00 (おかやまアナウンスラボ)
27日 17:00~20:00 (おかやまアナウンスラボ)
- ・講師 : 森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・受講人数 : 8名
- ・内容

最終成果発表会で発表する学生を選抜して振り返りやプレゼンテーションのブラッシュアップや伝わる伝え方のスキルアップを図る事後研修を実施した。

(10) 最終成果発表会

- ・日時 : 平成29年12月3日 10:00~17:00
- ・場所 : 備中県民局会議棟
- ・講師 : 森田恵子 原浩之 浅越昌子 久保田正彦
- ・発表者 : 7名
- ・参加者 : 29名
- ・内容

学生がD-INTERNSHIPから得た自身の変化や学びを振り返り、これからの学業や人生にどのように生かすかを考え、一般の方へ発表する最終成果発表を実施した。

6 成果・効果

学生アンケートについて、本プログラムが自分のキャリア設計に「とても役立つ」「やや役立つ」（他の選択肢として、「あまり役立たない」「全く役立たない」と答えた学生が9割を超えており、人材育成プログラムとして大きな成果を残したといえる。

なお、龍の仕事展について、今年は天候に恵まれず来訪者数は過去最低の8,153名（対前年度比63.7%）でしたが、会場売上は過去2番目の3,142,131円（対前年度比105.0%）となった。また、客単価とブースの平均販売額で見れば過去最高となり、学生の成果が見えた。

7 今後の課題・展開等

今年度は大学での授業にしてもらうなどの連携を模索したが、効果的なアプローチができなかった。

しかし、学生が参加している大学やOB／OGなどの以前参加した学生からの事業評価は高まっている。今後は、協働事業に関わっている大学の教授やOB／OGからの評価を聞き取り、まとめたものを作成して、大学にPR活動をしていき、大学での授業化を目指していく。

8 県民局が協働した効果及び課題

学生の参加募集においては、大学コンソーシアム岡山との調整やサポートを県民局が行い、大学での単位化という事業自立の方向性を示せたことが成果として上げられる。

また、県民局の会議棟を研修の会場として利用することや広報活動の面ではテレビ放送、プレス発表によるマスコミへの周知、またローソンへのチラシの配布も実施した。

課題として、大学と事務局の顔合わせをすることはできたが、自立化に結びつくまでの支援が結果としてできなかったことが上げられる。

9 実施状況



事前研修



企業交流会



企業研修



中間研修



直前研修



PDCA 実践



P D C A 実 践



成 果 発 表 会



事 後 研 修



最 終 成 果 発 表 会

1 事業名 : 高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発

2 実施団体名 : 一般社団法人水辺のユニオン

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課振興班

4 事業目的・概要

高梁川トレイルが風土ツーリズムとして完成するよう、ルートの開発・磨き上げ・マーケティング、オープンデータマップ制作、推進体制整備等を行う。

5 事業の流れ等

(1) モニタートレイルの実施

地域団体との協働によりルートの磨き上げやモニタートレイルの実施、マーケティング調査等を行い、観光商品化に向けて検討した。

①JR 高梁駅～御根小屋跡～備中松山城～高梁美しい森ルート

実施日 : 11月25日 (参加者4名)

②成羽美術館～宇治～延命寺～吹屋(泊)～坂本～花木～鯉が窪湿原～新見哲西ルート (1泊2日)

実施日 : 12月9日～10日 (参加者5名)

③JR 倉敷駅～阿智神社～藤戸寺～天城池田～熊野神社ルート

実施日 : 2月4日 (参加者6名)

④笠岡金浦～矢掛町～美星町三山 (明治期「魚荷道 (とと道)」) ルート

実施日 : 1月14日、1月28日 (計2回、参加者43名)

⑤岡山県立大学～砂川公園～鬼ノ城～血吸川～足守ルート

実施日 : 2月3日 (参加者8名)

(2) シンポジウム

明治期の魚荷道の調査開発活動を中心に各団体・組織との協働について討論、各地域のトレイル活動報告を行った。

日時 : 平成29年12月8日 (金) 13:00～17:00 (参加者32人)

テーマ : 高梁川トレイル協働の仕組みと可能性～明治期の魚荷道の調査開発を中心に～

(3) 講座

各ルートの講師が行程に沿って史跡や見どころを説明し、事前に各ルートの魅力や歴史的背景への理解を深めた。

第1回 日時 : 平成29年7月7日 (金) 10:30～12:00 (参加者10人)

内容 : 笠岡金浦～矢掛町～美星町三山ルートについて

第2回 日時：平成29年10月30日（月）18:00～19:30（参加者9人）
内容：備中高梁駅～備中松山城～高梁美しい森ルート、
成羽美術館～窓坂峠～宇治～延命寺～吹屋ルート、
吹屋～坂本～鯉が窪湿原～新見哲西ルートについて

第3回 日時：平成29年12月16日（土）18:00～19:00（参加者5人）
内容：倉敷川を辿るルートについて

(4) 高梁川トレイル読本の制作

高梁川トレイルのマップ、ルートの歴史や史跡等の解説を記載した読本1000部制作した。

(5) 高梁川流域トレイル推進協議会

高梁川トレイルを推進する団体や組織をとりまとめ、連携体制を検討して各地域に部会を設置するなど、協議会の設立に向けての準備を行った。

(6) 高梁川トレイルのためのグリーンインフラ整備

「おかやま森づくり県民基金事業」等を活用し、トレイルルート of 環境整備に向けた検討を行った。

6 成果・効果

- ・講座とモニタートレイルをセットすることにより、参加者が各ルートの歴史や文化を深く知ることができ、満足度も高くなった。
- ・旅行会社の助言を参考に、モニタートレイルの人数や実施方法等を検討し実施することができた。
- ・1ルートのモニタートレイルでは、旅行業者の協力を得て実施することができた。

7 今後の課題・展開等

- ・各トレイルの距離が長く、内容も多いことから旅行会社が扱う一般向け商品としては難しいことがわかった。ターゲットに応じたルート設定やポイントの絞り込みによる磨き上げを検討する。
- ・講師が高齢となっており、後継者の育成が急がれる。
- ・地域団体・組織との協働によるルート環境整備の体制を引き続き検討する。

8 県民局が協働した効果及び課題

- ・旅行会社への働きかけ等を助言し、旅行商品化に向けての可能性や課題の整理を進めた。
- ・モニタートレイルやシンポジウム開催のプレス発表やチラシ設置により広報を行った。

9 実施状況



シンポジウム



講座



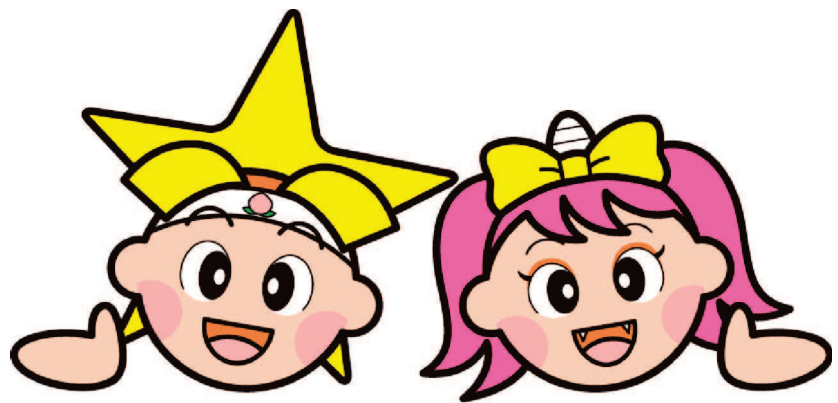
モニタートレイル

(明治期魚荷道ルート)

(倉敷川とともに歴史を辿るルート)



トレイルマップ、トレイル読本



©岡山県「ももっち・うらっち」

4 平成29年度 協働事業の概要 No.8

1 事業名 : 大学留学生との交流をとおしての地域の活性化事業

2 実施団体名 : 輝け！江良元気会

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課振興班

4 事業目的・概要

・目的

岡山の大学留学生との交流をとおし、「ひと、もの、こと」を活用し、地区民の創意と工夫で、地域の活性化を進めることを目的とする。

・概要

大学留学生を受け入れるための事業として、江良谷川公園の整備・清掃、ホームステイ受入家庭の開発等の実施、大学留学生との交流として、ホームステイ、神輿担ぎ等の実施、まちづくりの意見交換として、留学生と地区民との話し合いを実施する。

併せて、江良の産業振興を図るため、国際農園野菜作りとして、ケニアの野菜、ステビアの栽培を実施する。

5 事業の流れ等

(1) ホームステイの実施

< 1回目 >

日程 平成29年7月15日(土)～16日(日)

参加者 留学生10名、受入家庭10

< 2回目 >

日程 平成29年11月11日(土)～12日(日)

参加者 留学生8名、受入家庭8

(2) 神輿担ぎ

日程 平成29年10月8日(日)

参加者 留学生15名、地域住民等83名

内容 若宮神社の神輿担ぎを留学生とともにいき、休憩時には地域住民との交流を行う場を設け、活発なやりとりが行われた。

(3) 伽藍山登山

日程 平成29年10月9日(月)

参加者 留学生15名、地元有志・岡大教員等15名

内容 地域の観光資源として整備を進めている伽藍山の登山を行い、交流を行いながら、感想などを聞いた。

(4) 国際農園野菜づくり

ケニアの野菜作りについては、平成 27 年度に岡山大学留学生と打合せ、28 年度に土壌検討を行った後、29 年度に実際の植え付けを行い、調理・試食を行った。

ステビアについては、28 年度末に岡山大学留学生と打合せを行い、29 年度に土壌検討、500 本の植え付けを行い、10 月の収穫後は食材として様々な活用を実験的に行った。

6 成果・効果

岡山大学留学生との交流については、ホームステイの受入家庭は江良地区外からの応募が増え、江良地区内では留学生との交流が次第に円滑になってきた。留学生は帰国後も江良を応援してもらっており、サンフランシスコでの大名行列の際には、かつて交流を行った留学生が仲間を募り意欲的に参加している。

国際農園野菜づくりについては、道半ばで十分な結果は得られていない。

7 今後の課題・展開等

地区住民が自発的に地域活性化を望む環境づくり、世代を超えた地区住民の強い絆の構築、地域活性化のための大学及び留学生との連携が主な今後の課題である。今までの地域外とりわけ留学生との交流の取組を基礎としながら、地域内課題の解決に向けた取組を進めるため、「おかやま元気！集落」の登録を行い、新たな地域活性化に取り組む。

8 県民局が協働した効果及び課題

広報については、イベント実施時、山陽新聞や地元ケーブルテレビからの取材があり、十分な効果があったと思う。事業そのものは、地域で継続的に行っているため、指導や助言という場面はなかったが、今後、他の地域活性化策に取り組む中で支援を期待している。

9 実施状況

	
7/16 ホームステイ解散会	10/8 神輿担ぎ

4 平成29年度 協働事業の概要 No.9

1 事業名 : 若者×大人×地域 備中まるごと【夢＝志事】化事業

2 実施団体名 : 備中志事人

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課振興班

4 事業目的・概要

・目的

中高生の相互にとって学び合いの場づくりを行っていくことだけでなく、若者に協力する大学生や大人達自らもチャレンジしていくことにより『つながり』と『循環』による地域活性の”追い風”を創り出すことを目的とする。

・概要

地域の現状や課題を知るためのフィールドワークや地域で誇りをもって活動する先輩や大人たちとの意見交換、先進的な取組を行っているゲストから生き様や熱い想いを聴く学習会等の実施

5 事業の流れ等 (実際に実施した内容 (日時、場所、講師、内容、参加者、対象など))

(1) コノユビトマレ MTG (ミーティング) @浅口

○日時 平成29年6月4日(日) 10:00~15:00

○場所 金光駅周辺、鴨方高校

○内容 ①あさくち未来Labによる古民家再生事業の取組紹介
②フィールドワーク(高校生が案内する金光の魅力)
③フリップトーク(若者と大人の交流会)

○参加者 中高生・大学生・一般合わせて約30名

(2) コノユビトマレ MTG (ミーティング) @井原

○日時 平成29年7月23日(日) 10:00~15:00

○場所 アクティブライフ井原

○内容 夢多話会 ①ゲストトーク
(『人生グラフ』を用いたサンプリング)
②フリップトーク(若者と大人の交流会)

○ゲスト

i)橋本 雅弘 [消防士・アーティスト]

ii)中村 和裕 [福山大学・助教、総合格闘技 DEEP の元ミドル級王者]

iii)傍田 玲美子

[菓子製造・カフェ経営、『ハジマリニワークス』代表]

- iv) 名合 伯豊 [画道家]
 - v) 大原 あかね [大原美術館 理事長]
 - vi) 仁城 亮彦 [野良芸術家「チリトガス」]
- 参加者 小中高生・大学生・一般合わせて約 60 名

(3) コノユビトマレ合宿 (キャンプ) @笠岡

- 日時 平成29年9月23日(土) 10:00~24日(日) 16:00
 - 場所 笠岡市認知症介護研修センター
 - 内容 マイプロジェクトの作成・発表
 - ゲスト
 - i) 今村 亮 [認定NPO法人カタリバ マネージングディレクター]
 - ii) 川辺 笑
- [MY PROJECT AWARD 2016 ALL Star Team (徳島県立高校生)]
- 参加者 中高生・大学生・一般あわせて約 65 名

(4) ジブンゴト学会@くらしき作陽大学

- 日時 平成29年12月24日(日) 10:00~16:00
 - 場所 くらしき作陽大学
 - 内容 ①マイプロジェクトの発表およびブラッシュアップ
②フリップトーク (若者と大人の交流会)
③クリスマス交流会 (大学生企画による若者と大人の交流会)
- 参加者 小中高生・大学生・一般あわせて 66 名

(5) コノユビトマレ MTG@勝央

- 日時 平成30年2月3日(日) 10:00~15:00
 - 会場 勝央町役場
 - 内容 夢多話会 ①ゲストトーク
(『人生グラフ』を用いたサンプリング)
②フリップトーク (若者と大人の交流会)
- ゲスト
- i) 日下 輝之 [シンガー・ソングライター]
 - ii) 竹久 保
- [前勝央町教育委員会教育長、森林ボランティアきのこの森会員]
- iii) 本行 才泰
- [地域活性化興行師、(株)勝央体験ファクトリー 代表取締役]
- iv) 大道芸人チャーリー [風天の大道芸人]
 - v) 福島 康人 [和菓子職人、板屋菓子舗 専務]

vi)北村 友恵

[美容室おしゃれ泥棒 (おしゃれ TOM) 専務、美容福祉士]

(6) その他 (『全国高校生マイプロジェクト』との接続)

○H29. 10. 28-29 全国高校生マイプロジェクト 『関西カイギ@大東』

○H29. 12. 17 全国高校生マイプロジェクト

『関西マイプロ フォローアップミニカイギ』

○H30. 2. 18 全国高校生マイプロジェクト

『MY PROJECT AWARD 2018 関西大会』

6 成果・効果

中高生が、自らが活動している地域活動やその思いを大学生や大人に認められることを通して、自信を持つことができる貴重な機会となっている。

また、参加している中高生は地域活動への意識が高く、そのような子供達の間でつながりができることは、地域活動を今後行っていく中で有用であると考ええる。

7 今後の課題・展開等

当初予定していたスケジュール通りに事業の実施ができなかったことが課題として上げられる。しかし、今年度実施したことで中高生のスケジュールの流れが把握できたため、来年度以降は改善され、より多くの中高生が参加しやすくなることを期待している。

また、今後備中地域だけではなく、県内の他の地域に広げることにより多くの中高生に今後の成長を与えるような活動を行っていく。

8 県民局が協働した効果及び課題

プレス発表を実施することによって、マスメディアへ活動の周知を行い、新聞記事に取り上げられたことで広域的な広報を実施できた。

ただ、事業について進捗状況の報告等を受けるにとどまり、事業の進行について何かしらの支援を行うべきだった。

9 実施状況



コノユビトマレ MTG@井原



コノユビトマレ MTG@井原



コノユビトマレ合宿@笠岡



コノユビトマレ合宿@笠岡



ジブンゴト学会



ジブンゴト学会

4 平成29年度 協働事業の概要 No10

1 事業名 : 備中の食を知る！備中の食材を使った料理教室と食育講座

2 実施団体名 : 株式会社浅原青果

3 協働担当課 : 農林水産事業部農業振興課

4 事業目的・概要

消費者と生産者が Win-Win の関係を築き、相互が協力し、岡山の1次生産を盛り上げる。

5 事業の流れ等

(1) 地産の生産物を使った料理教室とお話し

- ・ 9月27日(水) おかやまの食材を使った料理教室 25名
- ・ 12月6日(水) 岡山のお雑煮作り 雑穀でお餅をつこう 21名
- ・ 1月17日(水) ジビエ料理教室岡山のジビエについて話を聞く 23名

(2) 圃場体験と備中食のツアー

①「テーマ」農業用施設と地域の食文化を訪ねるツアー

- ・ 6月28日(水) 高粱食ツアー 高粱川の川魚のお話し 27名
- ・ 8月30日(水) 新見農業用ダムと新見食のツアー(あまご養殖・紅茶) 27名
- ・ 11月14日(火) 笠岡干拓 農・酪農の見学と排水機場見学 27名
- ・ 3月7日(水) 古民家再生 宿主のお話し 25名

②圃場体験・市場探検 (対象親子)

- ・ 3月2日(金) 市場探検 5名
- ・ 9月9日(土) 収穫体験 69名

6 成果・効果

料理教室やツアーの参加者が、それぞれの機会に専門家から説明を受ける事により、本物の調味料や地元の食材の豊かさ、地域の生産者や特産物へ高い興味を示す等、消費者と生産者の相互理解が進み、本来の目的を達成することができた。

7 今後の課題・展開等

食育もツアーも今までより一步踏み込んだ内容となったが、当初目的としていたコミュニティの形成に至っていない。

ツアーや料理教室の参加者とのコミュニケーションの中で、食の豊かさを求める人は多いものの、備中地域の製造者や生産者については全く知らない人がほとんどである。

そのため、継続して消費者への啓蒙活動を続けていく事が重要である。

今回は生産者から食文化へと繋ぐ事が出来なかったため、風土、文化についてもその成り立ちと時代の影響による変遷等、踏み込んだ説明を行い、理解を深めていくことが必要となる。

8 県民局が協働した効果及び課題

県民局が、ツアーの視察先として農業水利施設を紹介した。普段入る事のできない場所であり、県の担当者が熱心に説明したことにより、岡山県の農業や県民を支える施設の視察は大変意義のあるものと参加者に感じてもらうことができた。

一方、広報による協働は、毎回チラシを市町、農協に配布したが、そのチラシを見て参加する方は少ないようだった。

そのため、今後同じような取組がある場合は、このような事業に関心の高い県民に向けて、効果的に広報することが必要である。

9 実施状況



料理教室 (9/27)

テーマ：みそ



料理教室 (12/6)

テーマ：雑穀



料理教室 (1/17)
テーマ：ジビエ



ツアー (6/28)
酒津配水地 (倉敷市)



ツアー (8/30)
三室川ダム (新見市)



ツアー (11/14)
笠岡湾干拓地寺間排水機場



市場体験 (3/2)



収穫体験 (9/9)



©岡山県「ももっち・うらっち」

4 平成29年度 協働事業の概要 No.11

- 1 事業名 : ジビエ調理でつなぐ食と農の架け橋～ジビエの需要拡大を目指して～
- 2 実施団体名 : 一般社団法人水辺のユニオン
- 3 協働担当課 : 農林水産事業部農畜産物生産課農産班

4 事業目的・概要

・目的

- ・ジビエを地域資源として有効に活用することで有害獣の捕獲を進めることは、農作物被害の抑制にもつながる。
- ・このため、イノシシをジビエ料理として食卓に上げるまで、捕獲から解体、加工、流通までの適正な流れをつくり、シシ肉の需要を拡大し、ジビエ料理を地域の新しい食材として定着させる。

・概要

- (1) ジビエ塾の開催（地域猟友会の協力のもと、野生鳥獣の生態・捕獲から解体、加工までの一連の知識と技術を習得する狩猟者を育成する。）
- (2) 備中ジビエコンテスト開催（ジビエの魅力を広く伝え、需要拡大を図る。）
- (3) 新たな商品開発とレシピ公開

5 事業の流れ等

項目	日時・場所	参加者	内容
ジビエ塾の開催	H29. 9. 16 倉敷市	7名	・全体説明（狩猟からジビエまで）
講師 新見市の猟師 長尾 一三 氏	H30. 1. 20 新見市	4名	・解体・加工（冷凍）
	H30. 2. 16 新見市	5名	・猟師のジビエ料理
備中ジビエ料理 コンテストの開催 講師 奈良大学名誉教授 高橋 春成 氏	H30. 2. 24 倉敷市 (アビーズスク エア)	約 100名	・11月1日から12月15日まで、備中地域を中心とした飲食店で、ジビエ料理コンテストを実施 ・2月24日には、最終選考会・シンポジウムを開催
新たな商品開発			・前年度試作の「山くじら丼」「キーマカレー」を磨き上げ、試験販売の実施

			・シシ肉が安定供給され流通されるまでをサポート
--	--	--	-------------------------

6 成果・効果

・ジビエ塾は、初めての試みで対象者も猟師免許取得を目指す者から単にジビエ料理に関心がある方まで幅広い層を対象者とした。狩猟期に講座をしたことが失敗で、全3回のうち全てに参加した方は1名という結果であった。しかしながら最終回では、50代、60代の猟師の方も参加いただき、結果として、地域の猟師同士の交流を図ることができた。

・平成28年度から開催の「備中ジビエ料理コンテスト」は、17店舗の参加があり、コンテストを通じ、一般販売を含め、約1トンのシシ肉を流通させることができた。

・参加店舗のジビエに対する意欲にバラツキはあるものの、総じて食材として魅力を感じており、今後、シーズンに関わらずシシ肉を使用するという料理店もあり、ジビエの需要を喚起することができた。

・備中ジビエ料理コンテストの最終選考会の前に実施した奈良大学名誉教授の高橋春成氏の「イノシシと人間」をテーマにした講演とシンポジウムは、ジビエを通して、都市部に生活する人と自然との共生について考えるきっかけとなった。

・最終選考会は、約100名が参加し盛会に開催することができた。料理人同士の情報交換の場にもなり、次年度開催に向けての意欲も上がった。

・備中ジビエ料理コンテストの開催を通じて、知己を得て交流が出来た高梁川流域の信金のクラウドファンディングでは、シシ肉の供給を安定させるため、高機能の大型冷凍庫を整備するための資金集めをするという機会も得た。ジビエ普及を通して、様々な波及効果を生む結果となった。

7 今後の課題・展開等

・猟師の後継者育成とシシ肉の流通を拡大すること。

・猟師グループや加工業者、流通販売業者、行政が協働した新見のシシ肉ジビエのブランド化を図ること。

・高梁川流域の広域連携で新見産シシ肉ジビエを中心とした地域食材全体の流通を拡大することを目的とする協議会組織設立も提案していく。

・イノシシと人間の共生に関しては、今回最終選考会での講演していただいた高橋春成氏に継続的に指導を受け、イノシシの生態調査や科学的な手法によるイノシシと人の棲み分け、個体数の維持などを含めて、イノシシを生態系の中で理解する活動も継続する。

・高梁川トレイルなどの成果とも結びつけて、グリーンツーリズムやジビエツーリズムなどにも展開をさせる。

8 県民局が協働した効果及び課題

- ・企画実施に当たっての助言、参加者募集への協力などを行った。
- ・ジビエ普及のため消費者への啓発はできたが、円滑な事業実施のための推進体制づくりが今後の課題として残った。

9 実施状況

	
高橋春成氏によるシンポジウム	
	
レシピ公開 (2品)	



©岡山県「ももっち・うらっち」